

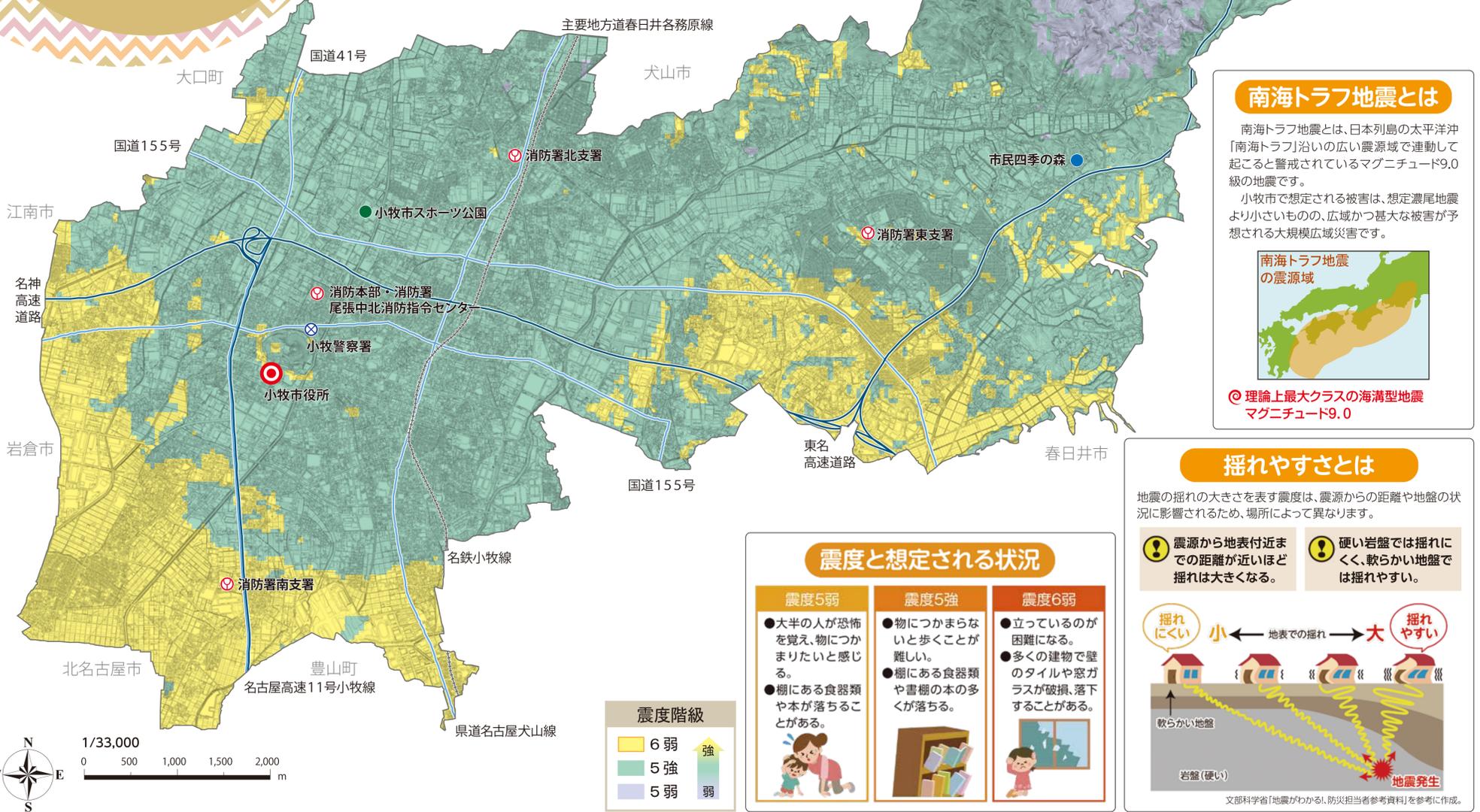
地震防火 マップ

南海トラフ地震

発行 令和3年9月
小牧市役所 市民生活部 防災危機管理課

南海トラフ地震の揺れやすさマップ (震度分布図)

下の図は、予想される震度の分布を示した地図です。
市内のほとんどの地域が震度5強となります。
市の南部及び東部では、震度6弱の強い揺れに見舞われる地域もあり、
建物等に被害が発生する可能性があります。



南海トラフ地震とは

南海トラフ地震とは、日本列島の太平洋沖「南海トラフ」沿いの広い震源域で連動して起こると警戒されているマグニチュード9.0級の地震です。
小牧市で想定される被害は、想定濃尾地震より小さいものの、広域かつ甚大な被害が予想される大規模広域災害です。

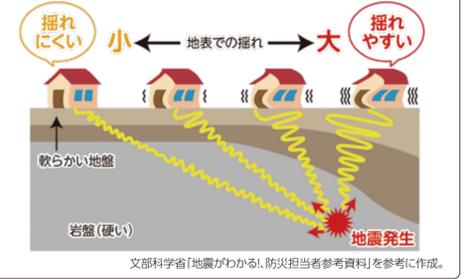


◎ 理論上最大クラスの海溝型地震
マグニチュード9.0

揺れやすさとは

地震の揺れの大きさを表す震度は、震源からの距離や地盤の状況に影響されるため、場所によって異なります。

- ⚠️ 震源から地表付近までの距離が近いほど、揺れは大きくなる。
- ⚠️ 硬い岩盤では揺れにくく、軟らかい地盤では揺れやすい。



震度と想定される状況

震度5弱	震度5強	震度6弱
<ul style="list-style-type: none"> ● 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 物につかまらないうちと歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や書棚の本の多くが落ちる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立っているのが困難になる。 ● 多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

震度階級



南海トラフ地震の危険度マップ (建物全壊率分布図)

下の図は、想定震度と建物の状況から建物の全壊率を算定し、建物倒壊による地域の危険度を示した地図です。
建物全壊率が大きくなるほど、その地域が受ける被害が大きくなる可能性があります。

南海トラフ地震が発生した場合



建物全壊率

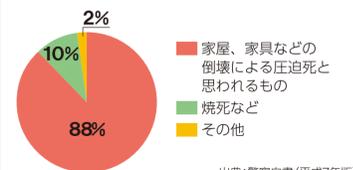
- 5%以上 10%未満
- 3%以上 5%未満
- 1%以上 3%未満

※全壊率1%未満の箇所は表示していません。

耐震化・安全対策の必要性

阪神・淡路大震災では、犠牲者の約9割が家屋の倒壊や家具の転倒などが原因で亡くなっています。
地震による被害を最小にするためには、家屋の耐震化や家具の転倒防止対策などに取り組んでいくことが重要です。

阪神・淡路大震災における死亡原因



出典：警察白書(平成7年版)

全壊率とは

全壊率10%とは、10棟のうち1棟が全壊することを示します。ただし残りの9棟も全壊にはいたらないものの被害を受ける可能性があります。



全壊とは

住家全部が倒壊、流出、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊、焼失若しくは流失した部分の床面積がその住家の延床面積の70%以上に達した程度のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が50%以上に達した程度のもの。



「災害に係る住家の被害認定基準運用指針(内閣府、平成25年6月)」を参考に作成。